

# city & life

都市のしくみと暮らし

no.113

Mar-Jun 2015

特集

新しい図書館



巻頭言

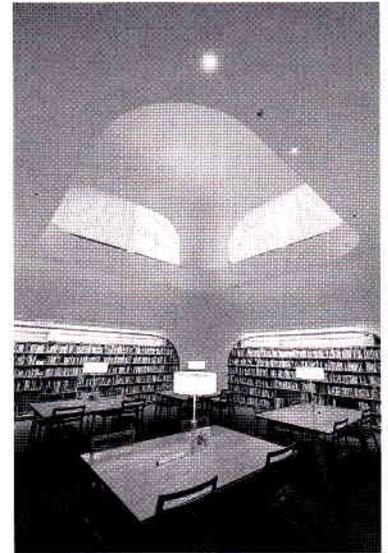
## 図書館、新たな交流サイトとしての……。

図書館が変わり始めた。24時間貸し出し可能だったり、自動貸し出し機が設置されていたり、条件付きでドリンク類や食べ物を館内に持ち込むことができたり、閲覧室のLANが無料で使用できたり……、これまでの図書館では考えられないサービスが受けられるようになってきた。公立図書館は、地域の新たな交流のための拠点へシフトしようとしているのだ。それは、いうなれば、図書＝情報を媒介とした交流サイト（site＝開発用地）の創造であり、まちづくりを視野に入れた知的インフラづくりでもある。

今、図書館は「市民の交流サイト」として新たな活路を見いだそうとしている。情報の拠点から、情報を媒介とする交流の場へ。情報＝知の共有は、創造性の共有でもある。ある公立図書館では、新たな取り組みとして、「共読」をテーマに、「読書会」を復活させた。その時挙がった本が、たまたま都市再生にかかわるものだった。すぐにさまざまな感想や意見が飛び出し、「読書会」はいつのまにか「まちづくり」のプレスト会場に変わっていったという。知識（バーチャル）の共有が、現実（リアル）社会へ接続した例だといえるだろう。知識を共有することは、他のさまざまな活動への回路を開くことにもつながっていく。図書館こそ、「まちづくり」の拠点となり得るのだ。

急速に広がる、図書館の新たな試みに焦点をあてる。

（編集部）



表紙・裏表紙——東京都武蔵野市「武蔵のプレイス」  
photo:坂本政十陽(関連記事:p21)

# 特集

# 新しい図書館

---

## contents

鼎談	図書館新時代 人が主役の知の拠点 磯井純充×井東順一×桂英史 [司会・進行]	2
ケーススタディ	図書館が町を変える、図書館が町をつくる 歴史的建築と現代建築を融合した新しい「滞在」のかたちをつくる <b>北区立中央図書館 (東京都北区)</b> 本を介して人とつながる、交流拠点としての図書館 <b>船橋まるごと図書館プロジェクト (千葉県船橋市)</b> 図書館を軸に、四つの機能が合流する「場所」をつくる <b>武蔵野プレイス (東京都武蔵野市)</b> 文化的交流の拠点としての図書館 <b>まちとしょテラソ+おぶせまちじゅう図書館 (長野県小布施町)</b>	8
イラストルポ	浅生ハルミンの「本のある空間」への旅	25
年表	日本の公立図書館の歴史	28
連載	スキマファイル④   上り下りするスキマ 新宿は階段の町だった!	30
連載	子どもたちの「笑顔」に会いに行く④   たまプラーザ こどもの詩 (うた) 保育園「ひとりひとりのこどもたちのために」 すくすく・いきいき村 緑が丘保育園 (分園) 「0歳も100歳も、一緒に遊ぶ木の〈童具〉」	34
	back number · information	38

---